

議会だより

Mogami Town Council Newsletter

no.193

2026年7月9日
発行

6月定例会号

10 最終報告
08 常任委員会 所管事務調査
06 「企業誘致のさらなる促進を」
3 議員が一般質問
まちの未来を問う

CONTENTS

02 特集

中心市街地の 今とこれから

今号の表紙／西郷屋（向町）
四代続く老舗そば屋「西郷屋」。特集にて商店街後継者の想いを四代目の佐藤雅哉さんにインタビューしました。

もがみの
魅力再発見

めっけ!

「もっと来て欲しい封人の家」

昨年、青少年育成の研修会が封人の家で行われました。私は今までに10回ほど入館したように思いますが、新たな発見がありました。秋の夕暮れ時であったので、囲炉裏や淡い照明で古の雰囲気が、かもし出されて良かったように思います。「とんと昔この会」の昔語りとマッチングし町内外の先生方より高い評価をいただきました。（菅 孝）



議会の主な動き

議会の日程はこちらから▶



4.19(日) 春季消防大演習

最上町消防団春季消防大演習が開催され消防団員の威風堂々とした分列行進が行われました。また、あたごこども園・大堀保育所の園児たちからも力強い中にも可愛らしい防火の誓いがありました。



5.16(土) 最上中学校運動会

晴天に恵まれて素晴らしい運動会が開催されました。30度を超える晴天の中、生徒たちの熱い気持ちが入った応援合戦や競技をしている姿に元気をいただけてきました。



6.7(日) 8(月) 関東圏「もがみ友の会」 みちのくウエストライン要望書提出

初日に関東圏「もがみ友の会」総会が日暮里で開催され、町に対する熱い提言やアイデアをいただけてきました。翌日、国会議員会館に伺い、みちのくウエストラインの早期実現に向けた要望書を提出してまいりました。



6月定例会 傍聴者数 7名 議会インターネット配信 視聴回数 740回

議会傍聴のご案内 次回の定例会は 9月定例会 です

議会中継はこちらから▶



議会だより リニューアル!

かねてより、UDフォント(ユニバーサルデザインフォント)の使用を検討しておりましたが、この度デザインと印刷をお願いしている委託事業者の協力で実現することができました。この機会に表紙と全体のレイアウトも見直し、町民のみなさまとの「つながり」を意識した親しみやすい紙面デザインに変更しました。毎号並べていくと川のようにつながるデザインになっています。

UDフォントとは…年齢・身体の状態・国籍に関わらず、「すべての人が見やすく、読み間違いが起りにくい」ように設計された書体です。

広報編集委員会

委員長 山崎 香菜子
副委員長 宮本 浩
委員 栗林 浩子
委員 佐藤 正市
委員 菅 孝
委員 須貝 康幸

【編集後記】梅雨入りを迎え、しとしとと雨が降る季節となりました。今号では6月定例会の審議や委員会活動の報告を中心にお届けしています。また、読者の皆さまに親しんでいただけるよう、表紙をリニューアルしました。議会は地域課題や住民の声を丁寧に議論し、議員みんなで町民の皆さんに取材活動を行い、よりよいまちづくりに取り組んでいます。本紙を通じて、議会活動を少しでも身近に感じていただければ幸いです。今後もしっかりと親しみやすい広報に努めてまいります。(佐藤 正市)

お詫びと訂正

最上町議会だより192号(2026年4月23日発行)2Pの最上中学校3年生による、ゆめ議会の記事で生徒さんのお名前に誤りがありました。飯島 康成(いひじま やすなり)さんが、正しくは、飯島 康成(いひじま こうせい)さん。伊豆倉 杏奈(いずくら あんな)さんが、正しくは、伊豆倉 杏珠(いずくら あんず)さんです。お詫びして訂正させていただきます。誠に申し訳ございませんでした。

中心市街地の 今とこれから

町の主要な生活インフラが集まる中心市街地ですが、近年店舗の閉業や住宅の解体が相次ぎ、空洞化が加速しています。人口が減っても生活基盤をしっかりと維持しながら、賑わいが生まれる中心市街地を目指していくためには何が必要なのでしょう。今回の特集では現状を確認しながら、町のみなさんと一緒に考えてみたいと思います。

数字で見る町の状況

人口 **7028** 人

世帯 **2685** 世帯

※住民基本台帳 2026年5月31日現在

公営住宅
(町営住宅・若者定住環境促進住宅など)
17 棟 (113戸)

空き家 (空き建て物を含む)
244 件

※2026年3月末時点

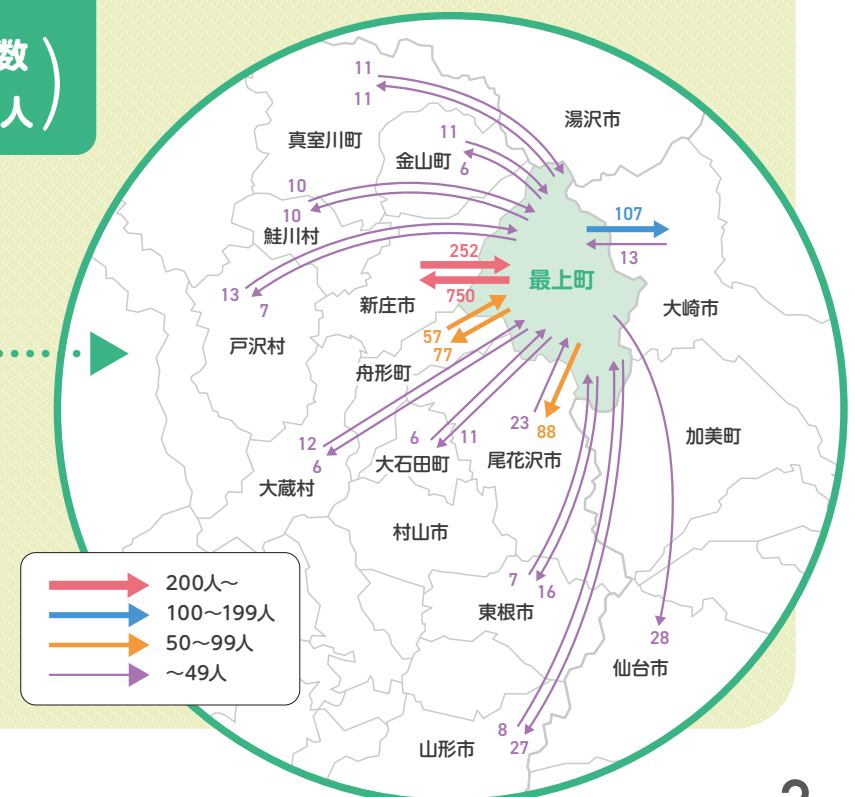
小規模事業者 (卸売・小売業)
79 事業者 (従業員数 **310**人)

※経済センサス2021年より

通勤・通学の状況

令和2(2020)年国勢調査における昼夜間人口比率は89.7%となっており、町外へ通勤・通学する方が多い傾向となっています。通勤・通学の動向をみると、新庄市とのつながりが最も強く流出・流入共に多くなっています。次いで、宮城県大崎市への流出、尾花沢市への流出、舟形町への流出が多くなっています。

※最上町立地適正化計画データより



広報 編集委員 が行く

現状を肌で感じるために、
広報編集委員が中心市街地を
実際に歩いてみました。

好立地にある
旧JA跡地の活用が
求められています。

元気ステージの看板も
だいぶ元気がないですね。

ここ数年で空き地が
目立っていますね。
空き地の雑草も課題に
なりそうです。

人ありきの商売なので、
人口減少は本当に切実な問題ですね。
(マキクリーニング)



若者定住環境
モデルタウン

創業80年以上の
和洋菓子屋さん！
バナナポートが人気です。
(大谷菓子店)



あたごこども園



最上町役場



元気ステージ



最上郵便局



最上駅

町で唯一？の
一方通行の路地。
栄えていた時代の
名残りでしょうか。



後継者の想い

県外での経験を経て故郷への思いを強め、親子三代の実家ラーメン店を四代目として継ぐ決意をしました。日々鍛錬で腕を磨き、商工会青年部の指導を受けながら新メニュー開発や地域活性化に挑戦。子どもたちにも笑顔で食べてもらい、商店街の未来と店舗の発展を日々全力で目指しています。



西郷屋
佐藤 雅哉 さん

店主の想い

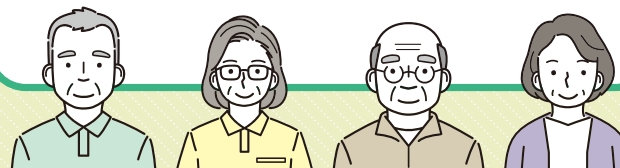
東京で就職後、30代で帰省し祖父が開業した店を父から私と受け継ぎました。以前は卸売中心でしたが、現在は店舗にもたくさんのお客様が足を運んで下さるようになりました。これからも長くて愛顧いただいているくじら餅の味を守り、新しい洋菓子の開発にも取り組みたい。向町商店街は子供の数が減りましたが、働く外国人の宿舎として空き家が活用されており、にぎやかな声が響いています。



佐藤菓子店
佐藤 達雄 さん

高齢者の想い

- ◎デマンドバスの予約の仕方が分からないので歩いて買い物に行っている。(90代女性)
- ◎足が悪く一人暮らしで雪投げが大変。どこに頼めばいいかも分からない。(60代女性)
- ◎デマンドバスの本数を減らされて困っている。1本でもいいから土日も運行してほしい。(70代女性)
- ◎子どもたちとの交流が増えれば力になる。(皆さん)



向町サロン参加者の皆さん

Interview

中心市街地
町民のみなさんが思う

様々な立場の方に
中心市街地についての想いや、
求めていることを
インタビューしました。



他地域からの想い

大変なこともあるかもしれないけど、工夫して暮らしを楽しめている人はいっぱいいるのかも。近いところで、いつもの顔ぶれで会える場所があればいいですね。例えばコミセンの中に一角だけでもくつろげる雰囲気のある場所があると自然と人が集まってくるのではないのでしょうか。



大堀地区住民
高橋 ゆう子 さん

店主の想い

商店街周辺も空き地が多くなり、子供が通らなくて寂しいので、空き地を整備して子ども達が遊べる場所や高齢者の方も休めるベンチを置いたりしても良いと思います。あとは、商店などの人達が以前のように集まり、話す機会が必要で、その中で出た若い人のアイデアを取り入れていくことで、賑やかになるのではないかと思います。



押切精肉店
押切 昇 さん

店主の想い

昭和40年頃まで瀬戸物の他に翹を製造していました。先代が体調を崩したのをきっかけに勤めを辞めて店を継ぎました。コロナの影響で物の価値観が変わり人口減に比例して物販業に陰りが見え始めた数年前から、一部食品加工を始めました。物販業だけの営業は厳しい環境になってきていますが、人と人とのつながりを大切に、地域に寄り添ったお店として頑張りたいです。



生活工房いしやま
石山 明 さん

子どもたちの想い

- ◎シールも売っている駄菓子屋さんがあったらいいな。
- ◎プールが向町にあると毎日行きたい。
- ◎遠い地区に住んでいるので向町に行けるバスが欲しい。
- ◎すこやか広場に小学生も楽しめる遊具が欲しい。
- ◎地域の人と遊べる場所があったら。
- ◎大人がいなくても遊べる場所も欲しい。



向町学童の子どもたち

まとめ

実際に町を歩いて様々な立場の方々からの切実な声が聞こえてきました。行政がやるべき部分もあれば、民間の力が発揮されることで盛り上がるものもあると思います。異なる立場同士が対話を重ね、両輪がうまく回り始めることで、良い循環が生まれるのではないかなという希望が見える取材となりました。町も計画書を作って終わりではなく、目に見える形で実行に移して行き、議会がその潤滑油の役割を果たしていけるよう、しっかりと町民と行政の間に立ち課題解決に向けて取り組んでいきます。

商工会会長の想い

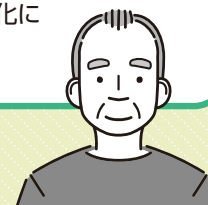
昔、商店街を拡張して公衆トイレなども整備する構想もありましたが、今となっては夢のまた夢ですね。これからは集中化し中心市街地に人を増やす必要があると考えています。最上町の人たちが、ここに来ると安心できる場であって欲しいですね。解体するだけでなく、若い人が挑戦できるような投資も必要です。以前はまちづくりについて考える会合などが頻繁にありました。対話から本当に町民が求めているまちづくりが始まると思います。民間の挑戦を後押しする行政であって欲しいと願います。



もがみ南部商工会会長
佐藤 隆 さん

店主の想い

商店街では後継者不足による将来への不安が広がっています。私の店も後継者がおらず課題を抱えていますが、地域に根差した店として、続けられる限り挑戦を続けたいと考えています。商工会や行政、仲間の力を借りながら前向きに取り組み、店舗の存続と中心市街地の活性化に全力で貢献してまいります。



五十嵐要商店
五十嵐 峰夫 さん

住民の想い

基本的に買い物は、人付き合いを気にせず気楽に行ける町外のお店や宅配サービスを利用するようにしています。将来の利便性や子の教育等を考え、転出された方々もいるので、こうしてしがらみや生活において何らかの生きづらさがあると定住につながらないのが現実だと思います。



子育て世代
A さん（向町）

6月定例会

会期
6月3日(水)～4日(木)まで

6月定例会が2日間の会期で開催されました。地域振興公社経営状況等の報告4件、農業委員・教育委員・消防委員の人事案件同意14件、条例の改正・補正予算等の承認7件、他条例の改正・財産取得・補正予算等の議案11件についての審議が行われ、全36議案を原案どおり可決しました。

企業誘致のさらなる促進を

養鶏場建設予定地（鍋倉）

Pick up!

議案審議

企業立地促進

問 企業立地促進奨励金の560万円の内容は。

答 株式会社アイオイに企業立地促進条例に基づき、委員会を開き5月15日に指定をし、用地購入及び排水設備に合わせて560万円の奨励金になります。工期は令和8年6月より、令和9年2月になります。事業用地は12ヘクタール、養鶏180万羽と雇用は16名を予定しております。

問 企業誘致と雇用確保を目的に、民間事業者が整備する誘導施設や移住者向け居住施設への支援に加え、外国人材の受入れや技能実習生の住環境整備への補助を拡充し、事業継続と地域活性化につながる持続的な支援体制の構築を進める考えは。

答 技能実習生をはじめとする労働者の住居確保に企業が苦慮している実態や、町としても空き家活用などへの支援が必要であると認識しています。また、現在の支援についても試行的な取組であり、抜本的な対策には

至っておらず、技能実習生だけでなく町外からの労働者も含めた住居確保の仕組みづくりが急務であると考えます。



技能実習生が働く職場

Pick up!

法定速度の引き下げ

問 令和8年9月1日より生活道路における自動車の法定速度が時速60kmから時速30kmに引き下げられますが、町としてどのように様に町民の方に周知していくのか。

答 生活道路における法定速度改訂についての町民の方への周知につきましては、町報などでもお知らせをしていく予定です。また、警察の方でもこの情報を周知するには相当時間を要するものと考えております。これから周知体制の整備が可能か確認を行い、引き続き関係機関と調整を進めてまいります。

人事案件

農業委員

任期/令和8年7月20日～令和11年7月19日

藤畑 智（新田）

渡邊 紀栄（中満澤）

小林 吉雄（沢原）

菅 慎一郎（東法田）

齊藤 常久（下白川）

中島 日出夫（若宮）

佐藤 真由美（本城）

松田 満理子（月楯）

渡部 浩栄（月楯）

大場 充（上鶏杉）

菅 倫人（野頭）

五十嵐 一春（向町）

教育委員

任期/令和8年7月1日～令和12年6月30日

大場 かおり（赤倉）

消防委員

任期/令和8年6月4日～令和9年9月30日

藤畑 智（新田）



Pick up!

進めぬ西公園エリアの再整備

問 おらだの川公園キャンプ場から簡易宿泊施設りんどうまでの間は、近年鳥獣の出没があることから、安全確保のため、当該箇所への街灯設置が必要ではないかと考えます。また、駐車場の車中泊や河川敷でのキャンプ利用が見受けられますが、河川敷は豪雨による増水など安全面での懸念があります。そのため、宿泊を控えるよう

注意喚起する看板設置が必要と考えます。これらの状況についてどのように把握・対応しているのか。

答 街灯設置については、現在の熊出没状況も踏まえ、必要性を認識しております。キャンプ利用者の多くが風呂とセットで利用されていることから、安全性確保のため検討してまいります。また、駐車場でのキャンピングカー宿泊に関する使用料や運用状況については詳細を確認しながら、宿泊規制の在り方も含めて今後検討してまいります。

問 老朽化している西公園エリアの将来的な方針と活性化検討委員会の動きはどうなっているのか。

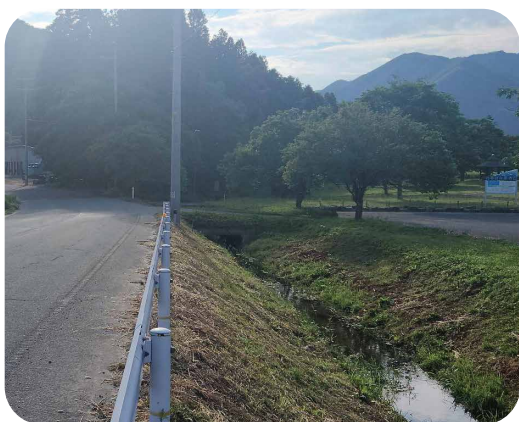
答 西公園活性化検討委員会については、検討委員会の設置までは至っていませんでした。プール・多目的広場については、年間7000人もの利用がありますので、修繕しながら利用拡大に努めてまいります。他にテニスコート・トイレやフェンスなど老朽化が進んでいる施設があります。たとえば野球場については、野球だけの利用ではない利用の仕方も検討していきます。

Pick up!

中東情勢の影響

問 現在ナフサ不足で新庄市では、各家庭で用意したごみ袋で対応することが可能になったようだが、当町においてどのような影響があるのか。

答 県内の市町村でも、ごみ袋等の影響があるようですが、当町においては、ごみ袋の1枚当たりの購入単価上昇などはございますが、焦らずに必要な分だけ購入していただければ現在は、大丈夫です。また、医療用手袋が不足する心配があり、現在国が備蓄している医療用手袋を購入する予定です。



街灯設置が求められる道路

まちの未来を問う

3議員が一般質問

発言順① 栗林 浩子

「部活や学校行事等の長距離バス移動について」「予約制乗合バスの便数と公共ライドシェア料金」

発言順② 佐藤 正市

「地域スポーツクラブ化の現状は」

発言順③ 山崎香菜子

「放課後子ども教室事業の連携を」「前森高原の早期改善と指定管理者募集について」

一般質問とは 議員の調査研究、住民の声や自身の考え方をもち、町長や教育長などの方針を問うものです。

※掲載している文章は抜粋したものです。詳しくは各議員の「次元コード」からご覧下さい。

質問 部活や校外活動の安全なバス移動は

答 運行管理規程やガイドラインを厳守します

問 部活の遠征に向かうバス事故があったが、当町中学校の部活遠征や校外学習のバス移動の安全性に問題はないか。

答 利用者から不満の声がある。また、公共ライドシェア利用料金が高額で利用しづらいという声もあるが再検討できないか。

答 【教育長】 可能な限りスクールバスや公用車を活用し、専業の運転手や関係職員が「運行管理規程」に則って運行しています。外部指導者が運転する場合は、「運輸業務委託契約」を交わして対応しています。いずれも、健康状態とアルコールチェック、安全運行点検を徹底し、万が一事故等があった場合は保険が適用されます。

答 【町長】 予約制乗合バスは稼働率の低い満沢・前森黒沢・月楯萱場の午後の便を削減し、需要の多い地域は5便から最大7便へ増便しました。予約早朝対応は、ニーズが少なく廃止しました。公共ライドシェア「あるタク」の料金は県内タクシー料金と比較して安価な設定となっており、介護タクシー「かもしか」と共存・住み分けも考慮しています。



安全運行が求められるスクールバス

公共交通の利便性と料金見直しは

問 予約制乗合バスの減便について



質問のねらい

予約制乗合バスの減便について町中心地から遠い地域から不満の声が上がりました。町民が平等に公共交通サービスを受けるためには、遠隔地の住民へ配慮が必要ではないでしょうか。

質問 地域スポーツクラブ化の現状は

答 生涯スポーツに親しめる環境づくりを目指す



問 地域スポーツクラブ化は町民の生涯スポーツ推進に重要と考えます。最上町における設立状況、参加者数、学校施設活用、町の支援内容、運営上の課題と解決策、今後の推進方針や町民参加促進策について、町の見解を伺います。

答 広報を活用した情報発信の強化を進め、関係団体と連携しながら、誰もが生涯にわたりスポーツに親しめる環境づくりに取り組んでまいります。

答 【町長】 本町では、総合型地域スポーツクラブ「もがみ西公園スポーツクラブ」を中心に、スポーツ少年団や社会人スポーツ団体などが活動しており、令和7年度は年間延べ約3500名が参加しています。また、学校体育館や旧小学校体育館などを活用し、現在13団体が継続的に活動しております。町では施設の無償提供や減免措置、活動費の一部補助、指導者講習会への参加支援を行っています。一方で、少子高齢化や労働環境の変化に伴う指導者のなり手不足、クラブ間の連携強化が大きな課題となっています。今後は、研修機会やクラブ運営支援の充実、「リーダーバンクやまがた」の活用による指導者育成、SNSや



クラブ施設で運動する子どもたち



動画はこちらから



質問のねらい

地域スポーツクラブ化は町民の生涯スポーツ推進や健康増進に重要です。最上町におけるクラブ設立状況、運営課題、今後の推進方針について町の見解を伺い、町民への入会勧誘促進に役立てることを目的としています。

質問 放課後子ども教室事業の連携を

答 相互参加を呼びかけていく



問 向町・大堀学区の放課後子ども教室「ワイルドエドベンチャースクール」と「わんぱく学校」は、開催日の重複や少子化による参加者減少が課題だ。子どもたちの多様な体験と中学進学後の交流円滑化につながることから、日程・内容を調整し学区を超えた参加を実現できないか。

答 テージのみの運営となり来訪者の満足度が低下している。アイスクリーム提供やキャンプサイトの早期再開をはじめとする管理改善を求める。また、地域おこし協力隊の活用、指定管理者募集の進捗と実績ある事業者へのアプローチについて伺う。

答 【教育長】 事業連携による交流促進は、本町の教育環境を一段高いステージへと引き上げる重要な視点です。他の特色あるプログラムも相互に開放し、イベントの拡充を目指した調整を図りながら、保護者向けメール機能を活用し、情報発信の充実に努めます。

答 【町長】 現在地域おこし協力隊員による情報発信をはじめ、魅力を創出するための取り組みを行っています。各施設においては6月より確かな実績を持つ事業者を募集し、7月の審査委員会で決定する予定です。



冒険家・大場満郎氏と一緒に



動画はこちらから

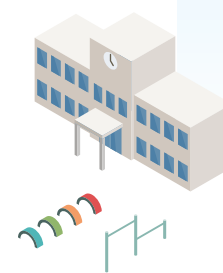


質問のねらい

都会では多額の費用をかけてでも自然体験をさせたい保護者がいる一方、町内の自然体験の機会は減少しつつある。両事業での体験は時代を生き抜く強みになるはずだ。



学校の統廃合は、今後同時進行で 廃校の利活用も考えていくべきでは



調査目的

町では、2011～2020年にかけて統合により廃校になった小学校が6校あります。今回、町の在り方として「どうしたら賢く縮む事ができるのか」を調査すべく、廃校の利活用を進めている自治体・3か所を視察研修してまいりました。

られたと思います。

栃木県那珂川町（なががわまち）では、旧馬頭中学校を借り受けてバイオマス発電を手掛けている（株）トーセンが運営していました。また、発電の熱を利用しているマンガローヤコーヒーの栽培とウナギの養殖も手掛けており町内の特産品の開発はもとより、雇用にも大変寄与している会社でした。

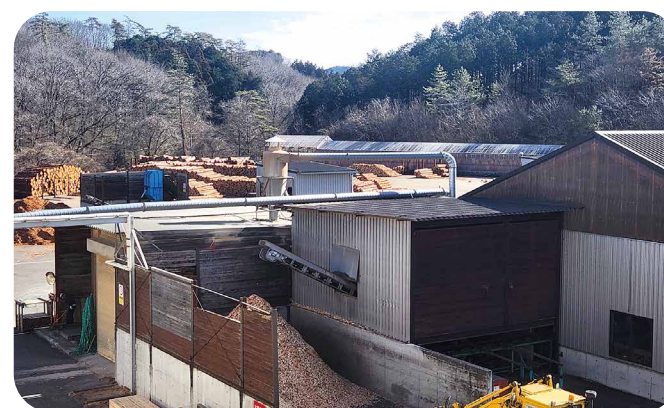
茨城県城里町（しろさとまち）では、旧七会中学校をプロサッカーチーム「水戸ホーリーホック」のクラブハウスとして利用されていました。昨年J1に昇格し町としても相当な盛り上がりを見せたという事ですが、芝生の管理に毎年2000万程度管理費用がかかり経費削減が課題のようです。

今回の所管事務調査では、人口減少から学校の統廃合に苦慮しながらも、旧小中学校の利活用という観点から3か所それぞれが、何とか利用に結びつけている良い実証例であると思います。共通点として、統合計画



と同時進行で、校舎活用促進に取り組み、今の活用に至っているという事です。

当町では廃校になってから数年が経過してしまっている状況ではありますが、前向きな活用で町の活性化につながる事を願いながら、所管事務調査報告といたします。



栃木県那珂川町 バイオマス発電



栃木県那須町 建売住宅

先進地視察

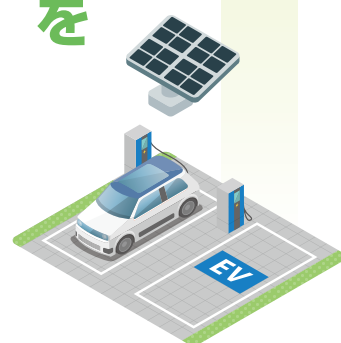
栃木県那須町（なすまち）の、旧那須小学校は那須まちづくり株式会社が行っている施設です。特徴は、グラウンドに建売住宅81戸（1戸1190万～2520万）が建設され、主に高齢者の集合住宅で集落を形成しているような施設でした。最上町で同じような施設利用は難しいと思います。雪国で生活する高齢者の集合住宅として、旧校舎利用のヒントを得

産業厚生常任委員会

委員長 宮本 浩



ライフサイクルコストを重視し 建物とエネルギー設備の一体整備を



調査目的

「エネルギーの利活用と環境に優しいまちづくり」をテーマに、「バイオマス産業都市」及び「ゼロカーボンシティ」を宣言した町として、エネルギーの地産地消による産業振興と持続可能な地域づくりの実現に向け、「公共施設の効率的なエネルギー活用」を中心に調査・研究を行いました。

先進地視察

神奈川県小田原市では、太陽光発電や蓄電池を活用したエネルギーマネジメント、EV公用車のカーシェアリング、地域マイクログリッドなど、脱炭素化と防災機能の強化を両立する先進的な取り組みを調査しました。

また、大規模病院における高い省エネルギー性能の確保など、公共施設のエネルギー利用の事例についても知

見を深めることができました。

また、町のもがみ地産地消エネルギー合同会社からは、国の重点加速化事業の進捗について説明を受け、再生可能エネルギーの導入を進めるうえでは、自然環境や景観との調和を図りながら地域振興につなげていくことの重要性を再認識しました。

さらに、山形県尾花沢市及び河北町では、雪や地下水など地域資源を活用した冷暖房システムを調査し、建物とエネルギー設備を一体的に設計・整備することで、省エネルギー化や二酸化炭素排出量の削減、光熱費の抑制につながることを学びました。

これらの調査を通じて委員会としては、今後の公共施設整備において、初期費用だけでなく解体費用までを含めたライフサイクルコストを重視し、建物とエネルギー設備を一体的に整備することが重要であり、太陽光発電に加え、雪・水・風などの地域特性を生かした自然エネルギーの活用についても幅広く検討する必



要があること。また町有EV車両の有効活用やカーシェアリング導入の可能性調査、災害に強く持続可能なエネルギー自治の実現に向けた取り組みが重要です。そして脱炭素施策を、町民の方が効果（お得・便利・快適）を実感できるように事業推進していただきたい。以上で、所管事務調査とさせていただきます。



神奈川県小田原市



山形県尾花沢市 雪室